

【期間】

2021年4月～6月

【開催場所】

かながわ県民活動サポートセンター
福祉保健研修交流センターウィリング横浜

【参加人数】

研修を受けた人（研修生）：8名～18名
講師：会場に2～6名 オンライン上で1～2名

【研修内容】

1. 意思決定支援ガイドライン研修（ZOOM）

4月8日（9時～16時40分 うち休憩100分）

- ・意思決定支援における好事例紹介・課題事例検討（講義及び演習）
- ・意思決定支援とは（講義）意思決定支援における基本的考え方
- ・意思決定支援ガイドラインの実践（講義）
- ・意思決定支援ガイドラインの構造（講義）意思決定支援に向けた支援プロセス①（演習）
- ・意思決定に向けた支援プロセス②（講義・演習）
- ・今後の活動に向けてディスカッション・質疑応答

2. リスクのとらえなおし研修

4月20日（9時～16時）（福祉保健研修交流センターウィリング横浜）

- ・リスクの紹介（講義・演習）
- ・支援者のリスクのとらえなおし（講義・演習）
- ・リスクを取るための4つの要素（講義・演習）
- ・リスクをとらえなおす事を行動に移す（講義・演習）

3. トーキングマット研修

6月1日（10：00～16：00）（福祉保健研修交流センターウィリング横浜）

- ・トーキングマット基礎研修、トーキングマットとは何か、実践（動画撮影・動画上映）、グループワーク 他

4. 実践的意思決定支援ファシリテーション研修（P S F研修）

5月13日（10時～16時）（かながわ県民活動サポートセンター）

- ・P S Fのもとになっている国連障害者権利条約、権利とは、P S Fの背景にある能力観、能力観

を変えよう（事例） 他

5月27日（10時～16時） （福祉保健研修交流センターウィリング横浜）

- ・本人中心、表出された希望とベストインタレスト、支援とは、救済とは、目的のある会話でのファシリテーターの役割 他

6月7日（10時～16時） （福祉保健研修交流センターウィリング横浜）

- ・実践的意思決定支援（P S F）モデル理論から実践へ、P S Fモデル概要、ファシリテーターの資質、P S Fモデル4領域
実践課程、合意書、E x p r e s s e d w i s hとは、ナラティブアプローチ 他

6月24日（10時～16時） （福祉保健研修交流センターウィリング横浜）

- ・目的のある会話とは、本人の希望を具体的に知る、模擬ミーティング 他

6月28日（10時～16時） （福祉保健研修交流センターウィリング横浜）

- ・ピアコンサルタントとの目的のある会話、合意書模擬作成、社会資源について考える、ファシリテーターの資質、まとめ

まとめ

コロナウイルス感染拡大予防の状況下での実施であり、当初想定していた使用会場の団体登録および予約および利用停止、本来参加する予定であった方の出席見合わせ、および所属団体から対面多数で集まる場への参加禁止の通達による辞退等により、開催も危ぶまれる場面もありながら、講師・参加者共に感染予防に努めながら、上記日程で「意思決定支援者従事者研修」を修了することが出来た。

障害者権利条約以降、障害者および高齢者（認知症等）支援の現場にも徐々に「意思決定支援」という言葉が広がり、厚生労働省から「意思決定支援ガイドライン」が示されるなど、社会的にも言葉としてのその認識はありながら、支援の現場レベルでは、果たしてそれをどのように実践して行くのかという具体的な手法や理論については、それぞれの団体や個々が思う「意思決定」を行っている現状もあった。

今回の「意思決定支援従事者研修」に於いては、教育や行政を含む関係機関や、医療・福祉の支援団体に所属する方の参加もあり、研修を実施することによって、幅広い分野の関係者（支援者）と共に「意思決定支援」に於ける「基本的な考え方」や「意思決定支援ガイドライン」の実践方法について学ぶことが出来た。

また、様々な所属からの参加者があったことにより、それぞれの立ち位置で培った支援の方法や事例についての意見交換も行えたことで、お互いに学び、理解できた事は、本研修による副次的な大きな成果の一つであった。

（引き続き「意思決定支援実践」および「意思決定支援実践のフォローアップ及び評価」を行う）